

中国 同済大学留学レポート

空間システム専攻 修士2年 矢野 泉和 (2023.9~2024.6 同済大学へ留学)

【留学の背景】

皆さんは上海に対して、どういった印象をお持ちでしょうか。おそらく、ほとんどの方はヨーロッパやアメリカは何かしらの印象をお持ちでしょうが、中国に関してはあまり想像がしにくいでしょう。私もその1人でした。子供時代に私の親の関係で、何度か訪れたことはありましたが、実際はどういう状況なのかは理解していませんでした。しかし、実際は上海は昔からの国際色あふれる都市であり、都市全体としての大規模な緑化開発を進めています。このように中国は国全体として開発が進んでいる開発都市であることに魅力を感じ、これを機に留学を考えました。

【授業の雰囲気】

授業は基本的に、英語で行われてきました。私の専攻した建築学では基本的に、設計というよりも上海の都市計画を事例とした比較や評論に関する授業が多く、それに対してみんなで議論する機会が多かったです。特に授業内容で印象的だったのは、垂直田園都市という授業での上海の山への校外学習です。上海は平地で日本のような高い山がないため、人工的に山を増設しました。規模は30万㎡で、基礎や構造は鉄骨やコンクリートで骨組みを作って、その上に土を被せていくことで実際の山を形成しています。そのためスプリンクラーによる植物の水やり、山の中への建築空間の造成など、山自体の維持やその構造体を生かした建築の内部空間の設計を施しています。校外学習ではその山全体を渡り歩きました。実際の山のような鬱蒼とした暗いものではなく、常に開けた丘のような印象でした。そのため、常に上海の街並みを見渡すこともでき、道も小さな草花を見ながら気軽に上ることの出来るものでした。



山周辺の模型



山頂での集合写真、上海の街並みが見える

【街の雰囲気】

中国系からヨーロッパ系まで幅広い建築様式を濃縮したような印象でした。だからと言ってそれらがちゃんぽんになっておらず、伝建地区と大規模開発都市とで立地が分かれています。中国はどこも大規模開発をしていると思われがちですが、実際は歴史的建築物に関する規制が厳しく、古い建築を残しつつ

商店街や店を構えているリノベーション建築が多いです。そのため歴史的建築を覗いていくと、どこか新鮮味のある内観が多かった印象です。



水の郷 朱家角



現在も古民家を生かした商店街が広がる

【留学中での成果物】

留学中にいくつか作品を作りました。そのうちの一つを、ご紹介します。現在中国では、超高齢化によって高齢者が増え、若者の都市への移住や仕事の関係で、高齢者を施設に預ける傾向が高くなりました。そのため昔のような子供と高齢者が一緒になる機会が、少なくなりました。そこで私は既存の高齢者施設にかつての小学校施設の記憶を取り戻すように、子供の居場所・フリースクールとなる「子供基地」を挿入し、子供と高齢者が寄り添いながら、それぞれの場が質感やスケールを持つ高齢者施設を提案しました。高齢者と子供が、程よい距離感で共に過ごし、お互いが交流を生む空間をテーマに設計しています。



課題での改修された高齢者施設的设计案

【留学を通して得たもの】

私たちの生活の中では、一見知っているようできちんと理解せずに、偏見で解釈している場合が多いと思います。メディアの情報だけでは、海外を知ることが難しく、ちゃんとその地に足を運び、大学内の授業や先生、地域の住民との交流などを真面目に行うことで、初めてその国がどんなものなのかわかると思います。また、だからと言って授業内容だけで満足してはいけません。いかに自分の時間を作って、行動に起こし努力することが重要だと思います。どんな国へ行こうとも常に自分を捨てずに、その土地でできる限り自分の目標に向かって努力すべきと感じました。